



趣味のオーディオ探求 旬の音本舗
FUKUDAYA
福田屋



主人 福田雅光



効果は抜群!
年末年始に
チャレンジしよう

第75回 様々なアイテムを使い、理想の環境を探る!

B&W「800D3」をメインスピーカーに据えた、新リスニングルームの誕生から早1年半。その間に、800D3を最大限に発揮させるよう試行錯誤を続けてきた。「パワーアンプはA級もしくはAB級のどちらが良いのか。」「調音パネルは、どの位置に配置して、吸音もしくは反射させるか。」など、オーディオファンなら必ず直面する諸問題でありながら、システムを構築する上で絶対に欠かせない環境の追い込み。今回は、バイワイヤリングの使いこなし術と、効果的なアクセサリーの使い方を紹介しよう。

◆バイワイヤリングSPDを
シングルで使う理想を追求
低域と高域端子用の
分配ケーブルを作る

シングルワイヤーで使うことの多い、バイワイヤリング端子。ジャンパーが付属されているため、音を出すこと自体に問題は発生しなく、低域か高域端子かを選び、接続さえすれば良い。しかし、ジャンパー線にどのような高級製品を使うかが、信号経路はアンバランスになってしまう。片方の入力端子はジャンパーを経由しているため、低域か高域のどちらかにロスが生じて、音質の変化は免れないのである。つまり、厳密なバイワイヤリングの理想は、2組の端子が均等同一条件で接続されることだ。

自作したのは、低域と高域端子が同一条件で接続するための分配ケーブルである。このような製品は存在しないため試作した。実は、この方法は昨年導入したB&W「800D3」で現在使っているのである。このスピーカーが短時間で低域から高域まで不満なく鳴るのは、この効果もあると考えている。そこで、今回の福田屋では、この低域と高域端子用分配ケーブルの作り方のポイントを紹介したい。

なるべく副作用の少ない
パーツを慎重に選びたい

このシンプルなセパレーター回路は、部材の選択が重要となる。信号経路で限りなくロスの発生を抑えれば、副作用のない状態が得られる。まず端子の処理について、金メッキ処理は少なからず音に変

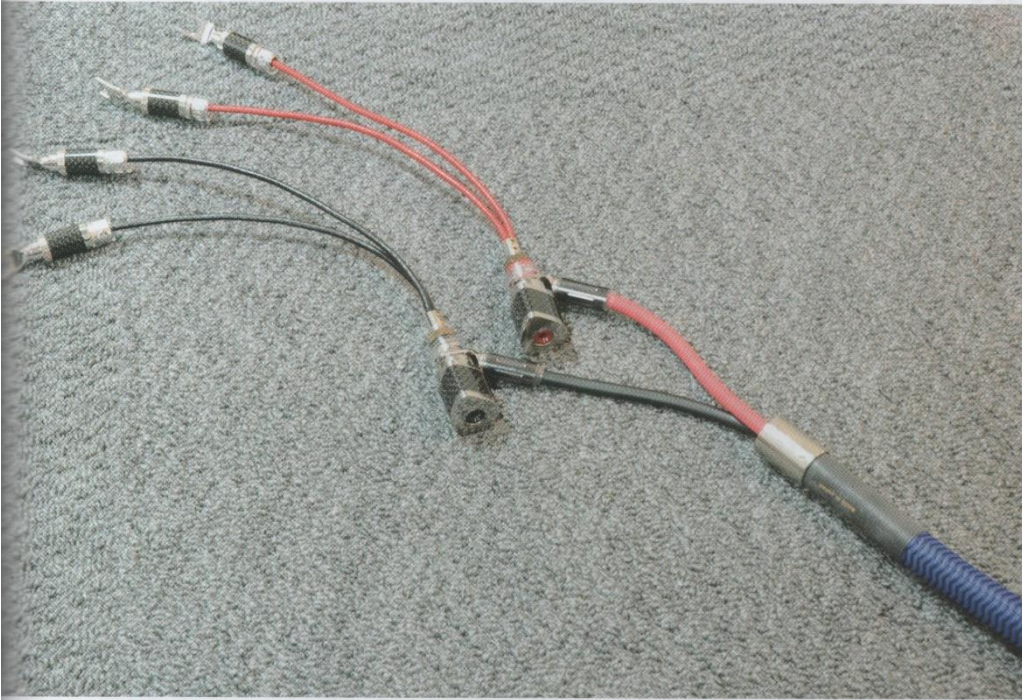
化が生じるため、ロジウムメッキのYラグやバナナプラグを選択することをオススメしたい。実際に幾つかテストをした結果、今回採用したYラグは、フルテックのCF201(R)。CFシリーズには、ロック機構もしっかりしているCF202(R)もラインアップする。バナナプラグとしては、現在の最

高性能と考えていいだろう。

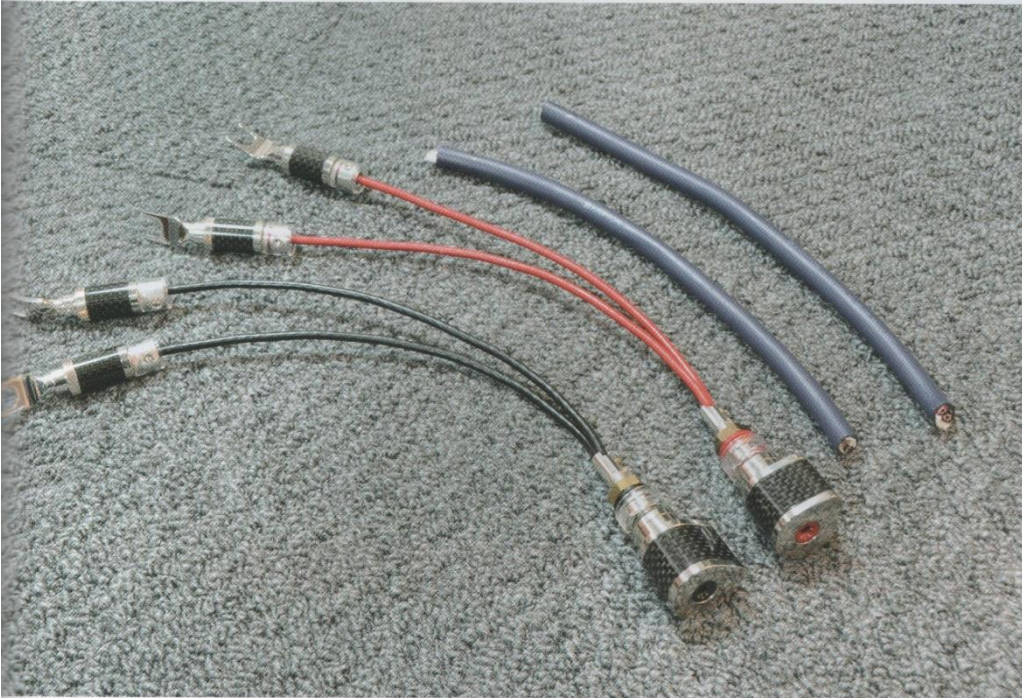
ここで難題がひとつある。2本のワイヤーを接続する際に、セパレーター回路の入力に使うスピーカーターミナルのサイズだ。通常は2本を接続するような構造設計ではないため、細いケーブルでは接続可能だが、今回は導体断面積3・6スクエアもある太いケーブルを

2本も用いるのである。写真のターミナルは、フルテックのFT・808(R)という生産完了品。これでギリギリ2本での接続が可能だった。なお、パイプ内部奥に半円状の部品があるので、これを取り出して使う。

ケーブルは切り売りタイプでレファレンスとしても採用している、



800D3用に製作された福田屋オリジナルの分配ケーブル



クリプトンのスピーカーケーブル「SC-HR1500」(¥12,000、税別/1m)の内部ワイヤーを取り出し、フルテックのYラグ「CF201(R)」(¥12,000、税別/2本1組)に取り付ける